

大阪でもセミが鳴き始めました。本格的な夏の到来です。

現在会員登録数 4,256 人さま。次号は 8 月 20 日発行の予定です／

+-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇-----+

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

+-----+

■-----■
【1】お知らせ

● 講演会「絵本と鳥の巣のふしぎ 鳥の巣が教えてくれること」

日時：9月8日（日）13：30～16：00 <<参加申込受付中>>

講師：鈴木 まもる さん（画家、絵本作家、鳥の巣研究家）

会場：大阪府立中央図書館 多目的室 定員：50人 参加費：300円

対象：子どもの本や自然に関心のある方（小学生以上参加可）

共催：学校司書研究会「気になる本を読む会」、IICLO

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#060908

● 新しい報告集ができました

『2023年度国際交流事業報告集 国際講演会「イタリアの絵本作家 フランチェスカ・サンナ自作を語る」／子ども向けワークショップ「フランチェスカ・サンナさんと絵本をつくろう！」』 2024年6月発行 880円（税込）

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/05_publication/index.html#hanbai

● 「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第38号の原稿募集

応募締切：10月31日（木）

※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。

※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701>

● YouTube版「本の海大冒険」 <https://www.youtube.com/@iicloll96>

※公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html

● Instagram https://www.instagram.com/iiclo_official/ 随時更新

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『あの日のあなた』中川なをみ/作 大野八生/絵 くもん出版 2024年6月
対象年齢：小学校中学年以上

* 今回のゲストは当財団理事長の宮川健郎さん（T）です。

あらすじ：茅町と稲穂村の間にバスが走り始めた頃、4年生のしずりは、メイという転校生と出会う。同級生の家が養蚕をする中、しずりの父が製糸工場を営んでいることもあり、しずりは級友との間に距離を感じていたが、大阪弁でおおらかな性格のメイと親友になっていく。メイは父と二人で、村にやってきた旅の人たちが泊まる、村の乾燥場に滞在していたが、それによって、級友やしずりの祖母はメイを快く思わない。しかし、しずりの祖父はメイをもてなし、しずりを応援する。しずりとメイの出会いから別れまでが描かれる。

T：不思議な始まり方の本だと思って読みました。

Y：しずりが紹介されたあと、しずりが下駄をはいていることが語られます。

T：それから、ひと月前から、村にバスが来るようになったこと、バスの挿絵を見るとボンネット型のバスであることから、どうも昔らしいということがわかってきます。けれど、設定について特別な説明がありません。

Y：しずりと友だちになるメイがもんぺやわらぼうりをはいていることから時代がわかります。

T：それでも、時代がはっきり限定されない形にすることで、旅の人というアウトサイダーに偏見を持つ村の人やしずりの級友の態度がかえって象徴的に描かれているということが出来ます。タイトルにあるように、ただ、「あの日」の話なんですね。

Y：なるほど。私は、はっきりとはしておらずとも、過去の設定にすることによって、偏見が可視化しやすい状況になったと思いました。

T：この作品は、メイの他にも、家の財産を食いつぶしてしまった芸術好きのしずりの叔父さんや、家族で旅の人としてやってきて、親が死んで孤児になって、村でいろいろな家に雇われながら生きている春人くんなどのアウトサイダーが出てきて定住民と漂泊民との出会いの物語として読むことができます。

Y：しずりは、村で生まれ育ったという意味ではインサイダーですが、農家の子どもではないので、自分をアウトサイダーだと感じていて、それゆえにメイと心を通わせることができると書かれています。自然な友情関係が楽しく、心地よく読みました。

T：そういう意味でとても今日的なテーマを扱っていると思いました。日本に移民してきた人たちと既に住んでいる人たちが、どうやってともに暮していくかという問題です。

Y：薬売りが紙風船をくれたり、ひな祭りに近所の女の子たちが集まったりするなど、昔の風習も興味深かったです。また、冒頭で、しずりがバスから降りて来るのを待っているおじいちゃんは、いつもメイとしずりの味方ですが、それはなぜかという謎が結末で明らかになる点も「なるほど！」と思

いました。

T：挿絵も作品の雰囲気とうまく伝えてくれますね。造園家で、植物の絵を魅力的に描く画家ですが、人間を描く目もあたたかく感じます。しずりとメイの表情が、出自と関係なく、友情関係が結べることを視覚的に表現していると思って読みました。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第107回「めくらぶどうと虹」

めくらぶどうの苦悩

城址にある四っ角山の上のやぶに、虹のように熟れためくらぶどうの実がありました。かすかな日照り雨が降ったり霽（は）れたりしたのち、東の灰色の山脈の上に大きな虹があらわれます。めくらぶどうは、今日こそあの美しい虹と言葉を交わし、くよるのそらに燃える青いほのおよりも、もっと強い、もっとかなしいおもいを、遙かな虹にささげたいと思います。〈私の命なんか、なんでもないんです。あなたが、もし、もっと立派におなりになる為なら、私なんか、百ペンでも死にます。〉

しかし虹は、〈私などはそれはまことにたよりないのです。ほんの十分か十五分のいのちです。（中略）ところがあなたにかがやく七色はいつまでも変わりません。〉と述べ、さらに〈本とうはどんなものでも変わらないものはない〉けれど、〈みなかぎりないいのち〉であり、〈すべてまことのひかりのなかに、いっしょにすむ人は、いつでもいっしょに行くのです。いつまでもほろびるということはありません。〉と答えます。

それでも納得しないめくらぶどうが〈虹さん。私をつれて行って下さい。どこへも行かないで下さい〉と言いますが、〈虹はかすかにわらったよう〉な様子を見せたあと、ほどなく消えてしまいます。

物語は、美への憧憬に固執するめくらぶどうが、美の象徴ともいえる虹にやさしく教え諭される構図となっています。美に囚われると盲目になり、それゆえに自我に囚われる存在となるめくらぶどう。対して虹には、物事の本質を知る賢者たる風格があります。

めくらぶどうの、虹のためなら〈百ペンでも死にます〉という捨身の言葉は、賢治の作品にしばしば登場するものです。「銀河鉄道の夜」には〈僕はもうあのさそりのようにほんとうにみんなの幸のためならば僕のからだなんか百ペン灼いてもかまわない〉とあります。「よだかの星」では、夜空をめぐるよだかが〈灼けて死んでもかまいません。〉と繰り返します。

それにしても、自身の命と引き換えにしても、めくらぶどうが虹に伝えたかった〈もっと強い、もっとかなしいおもい〉とは何なのでしょう。この〈かなしい〉には、生の儚さ、限りある命のなかで、美に憧れ、美を追い求めても到底到達できないことへの嫉妬や失望、不安や戸惑い、絶望や虚しさ、苛立ちや畏怖など、あらゆる感情が含有されているようにも見えます。めくらぶどうが抱いた苦悩は、そのまま真の芸術を追い求めた作者自身の苦悩であったと言えるのかもしれない。（ペ吉）

（本文の引用は、筑摩書房『宮沢賢治コレクション3 よだかの星』によりま

した。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 61

とんとんとん トラベッドさま
よろしく ねむねむ
おねがいします
とんとんとんぴ

(『トラベッド』 角野栄子/さく スズキコージ/え 福音館書店 1994年6月 p.50)

ヒロのいもうとのアイちゃんは、一つになったばかり。おかあさんも、おとうさんもアイちゃんの世話で大忙しで、ヒロの話を書く時間がありません。ヒロは児童館でケイクんとけんかをし、そのことをおかあさんに伝えたかったのに、おかあさんは、「ちょっとまってね」と言って、アイちゃんにおっぱいを飲ませはじめました。

怒ったヒロは、まず、紙に三重丸の目を描いてその紙をぐちゃぐちゃっとまるめて、ぼーんとほうりなげ、その紙をふみつけました。それから、アイちゃんのベッドにがおっと、大きな口をあけたトラの顔をかきました。すると、その夜、一人で寝ているアイちゃんの部屋から「ウォーッ」という声がきこえ、ヒロが行ってみると、大きなトラがアイちゃんを背中にのせて歩いています。そのトラは、トラベッドさまだと名乗り、アイちゃんを食べようとします。ヒロは、もっとおいしいものをあげると言いますが、トラは、あかんぼのほうがいいと言います。

アイちゃんは、さっきおかあさんのいったおまじないを思い出して、トラベッドのおしりをたたきながら、引用のことばを唱えます。すると、トラベッドはもとのベッドに戻り、ヒロはアイちゃんのベッドにもぐりこんで、朝までいっしょに眠ります。

姉の妹に対する嫉妬心や両親に対する不満が、勇ましい「トラ」として描かれ、子どもときの私を含め、共感する子どもがいっぱいいると思って読みました。スズキコージのトラベッドの絵は迫力満点です。そして、トラをなだめる方法が、おかあさんから聞いたおまじないだという点がことばの力を伝えています。子どもとき、お父さんからリズムカルな物語をたくさん聞いた角野さんならではの作品だと思いました。(Y)

《4》行って来ました！

神戸市立小磯記念美術館で9月23日まで開催されている特別展「絵本の旅 グリム、世界の昔話、ゆかりの作家と神戸の出版文化」に行ってきました。神戸市のBL出版が手がけた33人の作家による絵本の原画と資料220点が展示されています。

第1章 珠玉の絵本原画 ～能、バーナデット・ワッツ、ガブリエル・バンサン
の世界、第2章 自分の力を信じる ～今も昔も、世界の子供たち、第3章

あたまをはたらかせて ～いきもの、お仕事いろいろ～、第4章 自分の居場所、異形の力、第5章 わたしたちの大切な暮らし、の全5章に分けられて、各作品には、書誌事項、画材やあらすじ、作家からのコメントなどが書かれた丁寧なキャプションがついていました。

第1章の中では、特にバーナデット・ワッツの『ラプンツェル』、『ヘンゼルとグレーテルのおはなし』（グリム原作 福本友美子訳 2006年6月、11月以下、すべてBL出版発行）が印象的でした。エッツの描く植物はいつも味わい深い色合いとともに、縦の線が美しく、植物の力を感じさせます。絵を見ると、ドイツの森に迷い込んだような気持ちになりました。

第3章の『アリのメアリ』（いわたまいこ作 2022年5月）は、切絵作品です。特にかたつむりとメアリが会話をしている場面は、かたつむりの網の目のような体や縞模様の殻の線が繊細で美しく、指の先ぐらゐに小さいアリのメアリの表情までわかります。原画でみると、紙の切り口が見えて、自然界が立体的に感じられました。

第4章の『鳥の島』『ぴかぴかぷつん』『森の木』（川端誠作 1997年11月）は、「自家製新聞紙粘土で盛り上げ、アクリル絵具着彩、マットメディウムコーティング」の作品。迫力満点の絵は、自然の持つ力を強く訴えてきて、まるで立体的な絵巻物を見ているようです。この絵本はずっと語り継がれ、出版され続けてほしいと思いました。

さまざまな作家の絵に絵本の多様性を感じ、想像の翼を広げることのできる空間でした。（K）

神戸市立小磯記念美術館 <https://www.city.kobe.lg.jp/koisomuseum/>

《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち 第12回

第4章 宮川ひろ

その2 『春駒のうた』、『先生のつうしんぼ』、そして、『夜のかげぼうし』（後半）

これまでの三つの章では、坪田譲治先生、前川康男先生、今西祐行先生、あまんきみこさんのことを書きました。この先生がたと母宮川ひろのかかわりを軸に書きましたから、もう、すでに、母のデビュー作『るすばん先生』（ポプラ社1969年）のころまでを述べています。

第4章では、宮川ひろ（1923～2018年）のデビュー以降のさまざまを作品に即して振り返ります。母もまた、私の出会った児童文学者にほかなりませんでした。

この連載では、「思い出話」を語るだけではなく、私の出会った児童文学作家や評論家の仕事に対する考察や、さらには、そこから、現代児童文学史のとらえ直しも試みます。ご愛読ください。

<本編はこちらから>

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介
■ ----- ■

● 「大阪国際児童文学館を育てる会」2024年度総会記念行事

講演会「オランダ語の子ども本の現在」

講師：野坂悦子（オランダ語翻訳家、作家）

日時：8月10日（土）13：30～16：30 場所：ドーンセンター（大阪市）

主催：大阪国際児童文学館を育てる会 ※有料、要申し込み

● 企画展「没後10年 古田足日のぼうけん」

会期：8月10日（土）～9月29日（日）

会場：県立神奈川近代文学館

時間：9：30～17：00 ※ 有料、休館日あり

主催：県立神奈川近代文学館、（公財）神奈川文学振興会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント
■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『あの日のあなた』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ ご応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/lGzdaWoDzE4pc7ku8>

締切は8月13日（火）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

夏のイベントが目白押しです。夏祭り、サマーフェス、花火大会と盛りだくさん。体力を蓄えて参加するもよし、涼しい場所でゆっくり読書を楽しむのもまた一興です。（TA）

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
